

● 第33回多摩市自治推進委員会

平成21年3月17日 18:30~20:30

多摩市役所 特別会議室

出席者： 檜垣正巳委員長 江尻京子副委員長 伊藤雅子委員 大木貞嗣委員 白鳥光洋委員

事務局： 企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

・多摩市行政評価報告書について ・市民参画白書について

委員 「平成19年度行政評価報告書」への意見書については、委員の皆さんに事前に見ていただいた。特に意見がないようなので、これで確定する。

次に第二期自治推進委員会を終わるに当たって積み残したことのまとめとして、当面の課題を作成した。これは市長に提出し、また、次期委員会の参考にしていただくものとなる。

この中の市民協働について、事例を市民にPRすることを触れているところで自治推進委員会が積極的に見学するという部分は載せる必要はないと思う。見学をして何をするのかははっきりしない。また、多摩市寄附条例に触れているが、すでに制定されたのか。

事務局 議会に上程しているところである。

委員 次の委員会で検討することは良いが、今は早い。

委員 今の時点で審議中ということであればはずして良いと思う。

委員 多摩市を資金面で支えていくという言葉を残せたらと思うが。

委員 「多摩市寄附条例」を「多摩市への寄附」とするか。ふるさと納税があるから、寄附条例のあるなしは関係ないことになる。自治推進委員会が積極的に見学するという部分はどうか。

委員 とっていいと思う。

委員 この部分はとる。これで確定とする。

委員 今日は自治推進に関する当面の課題ということで、現在課題として考えていることについて意見をまとめたので朗読する。市長に参考にしていただくと同時に、次期委員会にも参考にして欲しい。

市長 ありがとうございます。

委員 委員の皆さん、一言ずつどうぞ。

委員 コミュニティセンターを背負って自治推進委員会に入ったが、自治基本条例と自治推進が分からない中で勉強させていただいた。地域での地域力というか市民力をどうやって結集していくかということについて、2年間で身近なものに迫ってきていると感じた。

委員 市民参画白書を作成したことが、考え方を整理することと、多摩市の現状を知ることになり、よかったと思う。知らないことがいっぱいあり、ずいぶん悩んだ。自治や協働などが奥の深いものであることがわかり、非常に感謝している。行政と協働しながら現場を預かっている立場としては、協働をすることによる質の良いサービスを市民に提供できるのだろうかということ振り返ることが必要と思う。NPO支援することは、その後ろ側に市民にサービスするという趣旨があることをNPOは忘れてはならない。でなければ協働は成り立たないということが

一つの課題。お金が欲しいということではなく、いかにサービスを提供していけば良いかということ。

委員 市民の自立が自治の根源にある。市民が行政を利用する意気込みが必要。行政にはあたたかい支援をお願いしたい。

委員 自治推進委員会は自治の勉強になると言われて委員になった。行政の現場で働いている人を身近に見てきた中で発言をしてきたが、行政よりだったかなという反省がある。自治推進についてこれまで勉強してきて、皆さんと知り合いになれてよかった。また、自治推進が市民に根付くのはまだまだということも痛感した。

委員 多摩市における協働は、行政と市民の思いが通じるところ、共感するところを拓けていくと面白いなと思った。活動されている方は多くいてその土壌はある。2001年から8年、たまたま自治基本条例の策定に参加して、ここまでになるとは思わなかった。いろんな地域の方と知り合えて大変良かった。

委員 市長何かご感想は。

市長 白書をいただいたときにも話したが、市民協働する側、NPOやコミュニティセンターなど土地の縁の活動をどうつないでいくか。そこが地域とどうつながるか。第3期自治推進委員会への課題として、モデル事業として成功事例をつくったり、他の地域に広げるかという水準まで来た。市民活動情報センターをつくって3年たった。2007年問題は結局何事もなかったが、いまあらためて少子高齢化時代を迎えて、社会保障がしっかりしていれば、市民はもっと希望を持てると思う。その辺を首長として国に言っていきたい。高齢化が進んでもこんなに元気だということを示すため、次の一手を打ちたい。

委員 同感である。次の一手は、何をどうすればよいかの問題。この前テレビで見たが、子供の医療費の問題が取り上げられていたが、多摩市は中学までが補助されるのか。

市長 総合交付金で通院は1回200円の負担。中学生まで対象が広がるのは21年度から。

委員 社会保障が充実しないと安心して暮らせない。東京は財源があるからまだ良いが、そうでないところと比べれば、まだ贅沢。

市長 せめてワンコインの負担にしたい。保育の話では、子ども青少年部の予算の40パーセントが保育。それでも待機児がでる。女性の社会参加等の複数の要素で増えている。供給を増やしてはいるがそれを超える需要がある。家庭福祉員さんがバックアップする仕組みをつくりたい。一時預かりのところで充実することによって、本格的に働く人たちを受け入れたい。

委員 コミュニティセンターで子供を預かることはできないか。

委員 学校跡地に老人ホームと子供預かりを一緒にやれば良いという意見がある。

委員 ボランティアだともものすごく神経を使うようだ。近親者がきてくれるのが一番いいのだが。近親者がくるのなら交通費は市が出すということも考えていいと思う。全く近親者がいない場合は別のことを考える必要があるが。

市長 お金を支払うことはむしろかしいところがある。選択するサービスを豊かにしようという方向に軸を変えてきている。国の基準では量が少ないので、多摩市は1.5倍にしている。障害者の送り迎えなど、あと1年で交通費はなくなるよというのが国の制度設計だが、それを市でやることは難しい。

委員 今、パーキンソン病の人の送り迎えをやっているが、何時に帰ると知っている結構ボランティアをする人はいる。

市長 社会資源を活用するということからそれは良い。

委員 地域で顔を付き合わせるようだといいのだが。

市長 迎えにいったらもういいですとなったときにその分も交通費を出すのかという問題が行政にはある。

委員 民生委員がいるのは知っているが、どこにいるのか知らない。広報を出すのか。

委員 1年1回広報を出し、3年に1回は顔写真付の名簿を出している。民生委員の任期は3年になっている。

委員 生活保護は民生委員が対応するのか。

委員 プライバシーの問題があり、直接対応することはない。

市長 民生委員を通して行政に連絡をすることもあるが、地域に知られたくないということで、配慮を要する。

委員 民生委員は行政から見て機能しているのか。

市長 相談とか見守りが比較的多い。

委員 友愛訪問で、1人で何百件も訪ねる人がいる。民生委員法が変わって名誉職から無償の存在にかわった。

市長 平成21年度からは子供が生まれた家には全戸訪問してほしいと国が言ってきている。

委員 たぶんそれもやることになると思う。

委員 もう少し民生委員の役割をPRしてもいいかもしれない。

委員 自治基本条例と同じで、広報等は出すが見る人が少ない。

市長 いただいた自治推進に関する当面の課題についての意見の中に、地域での市民の協力体制についての記述があるが、ここに民生委員が入ってもいいと思う。

委員 既成のものはもっと利用したほうが良い。

委員 安心できるあの人ならというイメージだったのが、今では、縁がなかった人が委員になったりするので難しいところはある。

委員 制度や仕組みができてても有効な成果が得られるのかよくわからない。

市長 先ほど、市民が行政を利用するぐらいの気持ちでということをお願いしていたが、行政も待っている。

委員 市ががんばりすぎて市民がやることがないのでは。

委員 地域の人との雑談で多摩市には、銘菓名物がないという話が出た。多摩市といえばこれというのはない。何か目玉になるものがあるといいのだが、多摩といえばニュータウンとなっている。

市長 白山神社でしか、キティちゃんの御札はもらえない。また、最近、東寺方で蛸が復活した。蛸饅頭ができたが本当に評判が良い。

委員 そういうのを宣伝した何かのときにものを配るなどして、地場産業を盛り上げて欲しい。

委員 食育が話題になったが、多摩市には地産地消の農産物はあるのか。

市長 給食で何品かです。食育は多摩市も力を入れている。食育は少ないけれど農は大事にしようと思っている。

委員 ブランド品が欲しい。食べ物だと安定的に供給して欲しい。

委員 落合あたりの団地を外国の人が見ているのに出くわしたことがある。観光のモデルケースにならないか。

市長 経済観光課が平成21年度にマップを作る。

委員 観光資源はなかなか難しいと思うが、よこやまの道は多摩市が管理しているのか。

市長 大部分が多摩市。

委員 団地で公園めぐりをしている人が多い。お金にはならないが、観光でなく健康づくりという
ことで誘致するのも良い。

委員 唐木田駅には、小山田緑地や別所に行く人が多くいる。行く人は無理だが帰りの人を捕まえる
ことは出来ないかと考えた。お金は落としてくれない。儲かるのは、電鉄会社だけ。もうち
よっとうまい形で何か役に立つような活性化の仕組みを考えなければと思うのだが。

市長 よこやまの道が歩きたくなる200選に入っている。

委員 唐木田駅には駅長がいないので連携が難しい。

委員 電鉄会社が主催するのが多いのだが。青梅マラソンは人が多く集まる。

委員 日本中央競馬会がどうやって収入をあげているのかということとちゃんとプロがいる。開催回数、
開催場所どうやれば見入りが増えるか考えている。大きな町ではリサイクルをやっている。面
白いから人がくる。

委員 道の駅を作るといいと思う。

市長 多摩市の地場産業の製品がそこまでない。八王子は良いが。多摩センターのバス停に福祉シ
ョップですら商品をあつめるのに苦労している。

委員 もっと富士見を利用したほうがよい。

市長 福祉ショップに漬物などがある。多摩市と富士見の地産地消の連携はいいことだと思う。

委員 園農を富士見とタイアップして、富士見に泊まっていただくとか、畑借りて田植えをやって
面倒は向こうにみてもらって、作物を送ってもらうなど。

市長 市内でやっているが大変で1件しかない。農業振興計画でそういう仕組みをつくっていき
たい。

委員 寄附条例のことで、市民から10万円以上貰った場合に賞状を出すのはどうだろうか。症状
をもらおうと喜ぶ人が多いと思う。市役所のどこかに名前入りのプレートを張るのも良い。

委員 欧米では劇場でもやっている。寄附をしたお父さんが子供に自慢している。会社から個人ま
で寄附をしている。寄附した人の掲示は、市役所ではなく、多摩センターなど人が集まる
ところにやると良い。

市長 寄附条例を議会に上程をしているが、寄附や日頃清掃をしている人たちに感謝の気持ちをど
う表すか。次につなげていくための仕組みがない。

委員 公園やパルテノン多摩にはそこに寄附した人の名前を入れてもよいかも。余り金額が高いの
もどうかと思うが、低いのもだめだ。

市長 新生活運動、1000円しか出さないということがあった。

委員 もともとは結婚式を簡素にやろうということではじまった。一方、葬儀場や火葬場の整備が
必要。

市長 南多摩斎場がここで増築する。炉はあるが式場はない。斎場葬祭場は難しい。

委員 一大産業になる可能性があると思う。

委員 他になければ、これで終了する。